

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600621		
法人名	有限会社 創		
事業所名	グループホーム ニコニコ創		
所在地	防府市上右田2458－1		
自己評価作成日	平成29年8月6日	評価結果市町受理日	平成29年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然の美しさの囲いの中にあります。見学に来られた方が口をそろえて「すごく景色がいいところですね!」と驚かれるほどです。佐波川の土手沿いは散歩コースとなっており、行き交う地域の人たちと挨拶を交わしたり、自然に咲ききれいな花を見ながらの散歩は、心と体をリフレッシュするには最適で、散歩後は「気持ちよかったです!」との声が多く聞かれます。また、生活されるにおいては、ご本人、ご家族より過去の人生歴、生活歴をよく聞き、その方らしさを失うことなく最適な生活を送られ、日々幸せを感じられるよう、職員一同、誠心誠意努力しています。一人一人、昔から馴染みある親しみを感じられる呼び名でお呼びし、家族的温もりを當んでおります。また、自由意志を尊重し、時間がかかっても、できるだけ本人が達成感を味わってもらふ事を基本にしています。そして、ご家族に手紙を書いてもらい、それをみんなで共有し、家族の絆をいつも感じられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は「管理者専用箱」を設置されて、職員からの意見や要望を聞いておられ、職員は1日を振りかえり、よかったことや自身の課題、疑問点、要望、意見等を書いて勤務終了時に投函しておられます。管理者はこの内容に毎日真摯に応えられて、職員の精神的ストレスを解消できるように取り組んでおられ、笑顔のケア実践に結びついています。入居時に家族が書かれた手紙を昼食後に読まれて、利用者が大切にしている家族との心の交流を継続し、絆が深まるように支援しておられます。利用者を担当している職員からは毎月、家族宛に暮らしの状況を自筆の手紙で送付され、家族との信頼関係を深めておられます。日常のレクリエーションの中で職員の思いを利用者に素直に伝えて利用者からアドバイスをもらえる「心の体操」を実施され、利用者と職員との信頼関係を築いておられます。食事は、利用者の好みや季節感を大切に献立を立てられ、事業所の菜園でとれた旬の野菜や新鮮な食材を使って、三食とも事業所で、利用者と職員が一緒につくっておられ、利用者と職員は一緒に同テーブルについて会話を弾ませて食事を楽しめるように支援しておられます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この町でいまを生きる」という事業所理念を揭示し、内部新人研修でその説明と理解に努め、日々のミーティングの中でも共有し、その人の幸せとは何か、理念をもとに考え実践につなげるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、実践目標と併せて事業所内に掲示している。年初めの内部研修やユニット毎に月1回あるケースカンファレンス時、毎日のミーティング時に理念にそったケアになっているかを職員間で話し合って確認し、理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業や新年会に参加している。事業所内の敷地を老人会のペタンクの場所として提供し、老人会の方達と一緒にお茶を飲むなどの交流をしている。週1回教会のシスターの来訪があり、利用者と談話をしている。宗教心のある方は教会へ行き交流している。散歩時には地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	自治会に加入している。職員は、自治会行事の草刈や溝掃除、新年会に参加している。利用者は農業大学の農業祭での買物や地域の祭りで花火の見学を楽しんでいる他、事業所内の敷地を老人会にペタンクの練習会場として提供し、ペタンクの見学や一緒にお茶を飲むなどして交流している。週1回、教会のシスターが来訪して談話をしている他、教会行事に出かけて交流している。ボランティア(詩吟、日本舞踊、三味線、フラワーアレンジメント)の来訪があり、交流している。散歩時には地域の人と挨拶を交わし、野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員さん等を通し、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。また、職員が認知症介護のプロとして身近な人たちに良きアドバイスができるよう指導している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部研修で評価の意義や項目の理解について学び、全職員と話し合いをしながら、管理者がまとめている。第3者の立場からは何を求められているのか、求められていることに関して現状はどうなのか、ということを中心に改善に取り組んでいる。	内部研修で施設長が評価の意義について説明している。管理者が作成したものを全職員に回覧して、意見をもらいまとめている。自己評価を実施することで、支援内容の振り返りや確認となっている。前回の外部評価の結果を受けて、目標達成計画を立て、運営推進会議メンバーの拡大や事故防止に向けて、実践力を身につけるための看護師による研修の実施など、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者状況、行事報告、事故報告、研修報告、風水災害時の地域との協力について、ターミナルケア、市役所、地域包括センター、民生委員からの情報提供など、話し合いをしている。年1回は、利用者と交流する機会を作り、サービス向上に活かしている。	会議は2カ月に1回、開催している。利用者の状況や行事報告、事故報告、職員の研修報告、ターミナルケア報告の後、風水害時の地域との協力について、避難訓練への協力依頼等について話し合いをしている。会議内容は「運営推進会議便り」を作成して家族宛に送付し、毎回、会議への参加を呼び掛けている。年1回は利用者と一緒に食事とレクリエーションを行い、認知症や事業所のサービス内容の理解が深まるように工夫している。災害時の地域との協力体制についてや「風水害マニュアル」作成についての意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議時や介護保険の更新時に出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換をしている他、防府市グループホーム連絡会参加時に相談や情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換や利用者状況について話し合うなど、連携している。	市担当者とは、運営推進会議時やグループホーム連絡会議参加時の他、電話や直接出向いて、情報交換や申請手続き、運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換や事例相談を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修で学び、身体拘束について職員は理解をして、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をせず、外出したい利用者とは一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が指導をしている他、職員間でも話し合いをしている。	職員はマニュアルを基にした内部研修やグループホーム協会の研修(高齢者虐待防止)で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは職員が一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては施設長や管理者が指導し、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の目につくところに高齢者虐待の定義をはり、防止に努めている。また、職員がストレスをためることがないように、日頃からしっかり話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに、過去に成年後見人制度を利用していた利用者があり、実践で学んだ。今現在も3名利用している方がおられ支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約前に契約書を家に持ち帰ってもらい、熟読してもらうようにしている。そして、契約の際、説明と同時に疑問点などないか確認している。解約の時も、家族と話し合いを十分にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて、契約時に家族に説明している。面会時、運営推進会議時、月1回の利用者の状況を知らせる手紙、電話など、家族から意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	相談、苦情の窓口や受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。家族の面会時や運営推進会議参加時、病院通院時、電話、手紙等で家族からの意見や要望を聞いている他、年1回、「家族アンケート」を実施して聞いている。月1回、家族宛に利用者の状況を記して送付して伝え、家族が意見や要望が言いやすいように工夫している。意見や要望は連絡帳や介護記録の備考欄に記録して職員間で共有している。家族から、面会は居室でしたいという要望があり、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は密にいつも話しをしており、職員も積極的に提案してくる。当然、いいものであれば、反映させている。休日希望も毎月尋ね、職員の急な休みも他の職員の協力により柔軟に対応できるような環境にある。	管理者は、毎月のカンファレンス時や毎日のミーティング時、日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。職員が1日を振り返り、よかったことや心配事、不明な事、意見、要望等について記録し、投函できる「管理者専用箱」を設けて聞いている。薬の管理方法についてや業務分担についての意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて参加の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し、回覧して共有し、いつでも閲覧できるようにしている。内容によっては内部研修の場で再度報告をしてもらっている。内部研修は、年間計画を立て、毎月1回、施設長や管理者等が講師を務め、運営理念、倫理規定、身体拘束防止、虐待防止、認知症、応急手当、感染症予防と処置、動作介助、食事介助、基本シート、自己評価、コーチング、心のケア等のテーマで実施している。新人研修は日常業務の中で先輩職員から指導を受け、働きながら学べるように支援している。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会が開催する勉強会、その他研修で知り合った同業者との交流、小規模多機能連絡協議会の定期的な会議、研修参加などで情報交換し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここで、よりよい生活をしてもらえるよう管理者、全職員、家族も含め努力をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話しはもちろん、利用予定者とも事前に面接をし、その方がどのような状態(進んだ認知症等)でも話を聴き、受けとめるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の足がかりで利用される方もいるが、それはそれで、今、そして今後を見据えて支援、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌い、一緒に料理し、手紙を読んだり、話したり喜怒哀楽を共にしている。また、畑に何か植える時などは逆にアドバイスしてもらうなど、利用者と介護者というよりも、まず人と人として支えあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族という事で、定期的な面会、家族が他県の際は電話、手紙で利用者を支えてもらうようにしている。また、お盆やお正月は、家族と過ごしていただけるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、親戚の人や知人、友人、シスターの来訪がある他、馴染みの教会の集まりに出かけている。馴染みの美容院の利用、手紙や電話での交流を支援している。家族の協力を得て、外出、外食、外泊、墓参り、法事への出席など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	孫やひ孫を連れての家族の面会や親戚の人、兄弟姉妹、近所の人、友人、知人、教会のシスターの来訪がある他、電話や手紙での交流を支援をしている。馴染みの美容院や馴染みの商店、教会、ドライブで実家の近くに出かけている他、家族の協力を得て法事への出席や墓参、外出、外食、ドライブ、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。入居時に家族が書いた手紙を、昼食後に職員が朗読して、家族との絆を深めることができるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	やはり、合う合わないあるが、それも把握し、また、利用者個々の能力、性格も把握し、孤立することなく、円滑にいくよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関わりを必要とする利用者、家族には入所時と同じように接している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に基本シート(基本情報、生活歴、家族情報、職歴など)を記入してもらい、活用している他、利用者一人ひとりの自分史を職員が毎食食後に紹介し、暮らし方の確認に努め、日常のかかわりの中での職員の言葉かけで感じたこと、言動、様子、新たな気づきなどを介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い本人本位に検討している、	入居時の事業所独自に作成した基本シートを活用している他、職員は日常の関わりの中で利用者に寄り添い、聞き取った言葉や表情、様子などを介護記録に記録して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を使用し、入所前に詳しく家族に書いてもらい、また、家族から利用者へ手紙を書いてもらったり、本人からでもできるかぎり聞き出すようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの能力、性格、心身状態を管理者、全職員が把握し、それに応じた役割を与えている。自ら夕方になると草取りや水まきをされる利用者いるが、自発的なものは任せるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスをし、本人や家族の意向、主治医や看護師、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、1年毎の見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている他、利用者の状況や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を始め、体調の変化により報告を密にしないといけなくなれば、専用ノートを作成し、事細かに情報を共有するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、美容院、買い物の付き添い、宗教など、本人、家族の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の滑舌ボランティアでの発声練習、看護学校の実習による触れ合い、運営推進会議メンバーとの食事会、大平山へのドライブなど本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とした場合は、月2回の訪問診療があり、必要に応じて受診情報を伝えている。以前からのかかりつけ医の場合は、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診情報は医師に提供している。受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間では連絡帳や看護記録に記録して共有している。緊急時には協力医療機関や主治医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合には、月2回の訪問診療と夜間、緊急時の対応をしている。他のかかりつけ医の場合と他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。受診前には、受診に必要な情報を、口頭や電話、FAXで医師に伝えている。結果は家族には、面会時や電話で伝え、職員間では連絡帳や看護記録に記録して共有している。毎日、職員による健康観察を行い、変化があれば看護師に連絡して、主治医や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート看護師1名、准看護師が1名職員にいます。また、何かあればかかりつけ医に電話し、指示してもらえるようになっており、訪問看護センターにも相談に応じてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを提出し、情報交換できるようにしている。入院中も通常の見舞い、時に利用者と見舞いに行ったりして、その際に状況を把握、情報交換するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針に基づいて事業所でできる対応について家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医、看護師、職員等と看取りや医療機関や他施設への移設について話し合い、方針を決めて共有し取り組むこととしている。	契約時に「看取りに関する指針」に基づいて、家族に説明し、同意書をとっている。実際に重度化した場合は早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師、職員で話し合い、方針を決めて共有して、看取りや医療機関、他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。昨年1年間で6名の看取りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が生じた場合はヒヤリハット、事故報告書にその日の職員間で対応策を検討して記録し、1ヶ月後に再検討して介護計画を作成するなど一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、内部研修で心肺蘇生、回復本位、背部叩打法、ノロウィルス、ヒートショック等の応急処置の対応を実施して、実践力が身につくよう努めている	事例が生じた場合は、ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員で内容、対応策を記録して回覧して周知し、1ヶ月後に再度検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員はグループホーム協会（日本赤十字社による）主催の救急救命法とAEDの研修を受講し、内部研修で転倒や骨折時の応急手当、心肺蘇生法、観察方法等について研修を実施しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て通報訓練を実施している他、昼夜想定避難訓練、消火訓練を実施している。地域との協力体制はご近所代表者へ連絡し、その方がまたご近所へ連絡して下さることになっている	年2回、消防署の協力を得て昼夜の火災を想定した、通報、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。運営推進会議の中で災害時の協力や訓練への参加、避難経路の安全について話し合いをしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で学び、職員は理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報については関係書類の管理などを徹底し、守秘義務について遵守している。	内部研修（倫理やプライバシー保護等）で学んでいる他、管理者や施設長は「相手の立場、心を大切に言葉かけをしているか」「世間話や日常話される言葉かけをしているか」「言葉をかけることで利用者が笑顔になっているか」を常に職員に問いかけている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話を良く聞き、自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝含め、ひとりひとりのペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪を自分で切りたい人は自分で、鼻毛が気になる人には鼻毛切りを提供、好きな色のカーテンをつけるなどし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の食材や差し入れの野菜、収穫した野菜を利用して、形状の工夫などをして三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、台拭き、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲み、同じ物を食べ、会話をしながら食事を楽しんでいる。季節の行事食、誕生祝い、おやつづくり(スイートポテト、かき氷など)の他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	事業所の菜園で取れた旬の野菜や差し入れの野菜、新鮮な食材を利用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の好みや季節感を大切に献立を立て、利用者の食べやすい形態の工夫をして提供している。利用者は野菜を切る、味見をする、盛り付け、お盆を拭く、テーブルを拭く、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルに付いて同じものを食べ、思い出話や世間話に話を弾ませながら食事をしている。オリジナル好みメニュー(カレーライス、寿司、丼、麺類)やおやつづくり(スイートポテト、かき氷等)、季節行事食(おせち料理、七草がゆ、節句の寿司、西瓜、ソーメン、クリスマス、餅つき)、手づくりケーキの誕生日食、家族との外出など、食事が楽しみなものになるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の把握をはじめ、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、ひとりひとりの状態を把握し、入れ歯の人は夜間ポリドントを使用するなどし、徹底している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底、決まった時間の排便誘導、毎日の運動、かかりつけ医への報告連携など、個々に応じた予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日、14時から16時の間可能で、隔日にその方のペースに合わせて入浴できるよう支援をしている。利用者の状態に応じて足浴、シャワー浴、清拭などの工夫をしている。入浴をしたくない人には言葉かけの工夫や職員の交代、時間の変更をするなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、入浴時間や、順番、湯加減等、本人の希望に添って会話を楽しみながら、ゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて足浴やシャワー浴、清拭等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい人は横になって過ごされるし、お昼寝したい人はお昼寝している。その人の性格、認知症の症状等考慮して支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。また、糖尿病の利用者も数名おり、変化が見られる時にはかかりつけ医に連絡し情報提供、こちらの意見も述べ指示を仰いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビやDVD視聴、般若心経を唱える、季節の行事(節分、雛祭り、七夕祭り、クリスマス会など)、足上げ体操、タオル体操、嚙下体操、心の体操、誕生日会、リースづくり、しめ縄飾り、詩吟、ことわざ遊び、なぞなぞ、パズル、編み物、紙芝居、歌、朗読、畑づくり、カラオケ、水遣り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き、下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭きなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	寝具(枕、シーツ、包布)の交換、布団干し、カーテンの開閉、洗濯物干し、洗濯物たたみ、タオルたたみ、野菜を切る、味見、盛り付け、お盆拭き、台拭き、下膳、食器洗い、食器を拭く、菜園づくり、水やり、本や雑誌を読む、テレビやDVDの視聴、般若心経を唱える、詩吟、諺遊び、線つなぎ、パズル、豆分け、トランプ、歌や替え歌を歌う、嚙下体操、足あげ体操、タオル体操、フラワーアレンジメント、ボランティアの来訪、教会に出かける、オリジナルメニュー、季節行事(節分、雛祭り、七夕祭り、クリスマス)、家族の手紙を読んでもらう、自分史を替え歌で紹介等、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩、馴染みの美容院の利用、教会訪問、天神様への初詣、道の駅、大平山のつつじ、向島の桜などの他、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散歩や馴染みの美容院の利用、教会行事への参加、馴染みのスーパーマーケットでの買物、季節の花見(桜、梅、つつじ、紫陽花)、ドライブ(大平山、阿弥陀寺、周南道の駅、佐波川、実家方面)、初詣に出かけている他、家族の協力を得て、外出、外食、買物、外泊、法事への出席、墓参など、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が良いところで、季節、自然の光、風を感じることができる。自然の景色が五感に働きかけるようになっていく。玄関には花を置くなどし、居心地良い空間を提供している。	玄関には季節の花が生けてあり、訪問者の写真が飾ってある。リビングは明るく、大きな机、椅子、ソファを配置し、ゆっくりとくつろげるように工夫している。壁面には歌詞や詩、利用者、職員の一言等を掲示して、利用者と一緒に読んだり、歌ったりできるようにしている。窓からは佐波川土手や庭の花木等、自然の景色を眺めることができ、季節を感じることができる。台所からは調理の音や匂いがして家庭的な雰囲気を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は食事の席を隣り合わせにしたり、独りが好きな人は、角席にしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、位牌、宗教関係等其他、使い慣れた物、大切にしている物があれば自由に持ち込みできるようにしている。本人が安心して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	机、椅子、衣装ケース、時計、馴染みの日用品、縫いぐるみなど、本人が使い慣れた物や好みのものを持ち込み、本人や家族の写真を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりで車いす移動されても、手押し車で移動されても、広々とした通路を確保し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームニコニコ創

作成日：平成 29 年 12 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	現在、心肺蘇生、回復体位、ハイムリック法、背部叩打法を毎月訓練しているが、骨折時の初期対応など必要と思われるものを随時取り込んでいく	看護師、准看護師と今まで通り計画を立てつつ、必要と思われる初期対応を訓練に随時取り入れていく	
2	36	地域との協力体制の構築	災害に備え、地域との協力体制を築く	運営推進会議で地域の災害対策の話しを継続し、地域の取り組みに同調しながら、地域との協力体制を構築していく	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。